

本朝孝子圖繪

三



9

3743

3

口 8
3743
卷 3

昭和十六年八月一日寄
尾崎實美氏贈

又其云に後つり郡吏彼が奇特を感^{かん}じて汝^{なんぢ}負^おく^て志^しを^し回^{くわい}
地^ちと^とふ^ふい^いて^て世^よを^を渡^{わた}る^るき^きや^や此^{こゝ}に^に汝^{なんぢ}が^が臺^{たい}前^{ぜん}の^の田^{でん}を^を求^{もと}め
る^るゝ^ゝ處^{ところ}に^にふ^ふべ^べと^と郡^{ぐん}吏^しを^を多^{おほ}し^し其^{その}家^かを^を負^おく^てさ^さい^いより^{より}て^て田^{でん}を^を賣^う
ゆ^ゆる^る時^{とき}其^{その}實^{じつ}を^を人^{ひと}の^の材^{さい}を^を母^{はは}と^とも^もさ^さる^るひ^ひ身^みを^をな^なけ^けけ^けつ^つべ^べと^とう
よ^よめ^める^るべ^べい^いづ^づろ^ろぞ^ぞや^や今^{いま}其^{その}惡^{あく}を^を忘^{わす}れ^れ權^{けん}を^をかり^{かり}て^て田^{でん}を^を賣^うる^るす
べ^べと^と理^りを^をし^しと^と中^{ちゆう}く^く強^{かう}ど^ど郡^{ぐん}吏^しを^を多^{おほ}し^し恥^ちて^て二^に度^どを^を出^でさ^さど
か^かれ^れど^ども^も若^わく^く若^わく^く若^わく^く強^{かう}ど^ど烈^{れつ}云^い聞^{きこ}く^く石^{いし}米^{まい}を^を賜^{たま}ふ^ふて^てその
孝^{かう}德^{とく}を^を賞^{しょう}さ^さる^る強^{かう}ど^ど強^{かう}ど^ど希^{まれ}大^{おほ}く^く恥^ちを^を思^{おも}ひ^ひて^て某^{その}母^{はは}に^に對^{たい}
て^て孝^{かう}の^のあり^りの^のゆ^ゆに^に喜^{よろこ}ひ^ひを^をさ^さす^す人^{ひと}並^{ひら}なる^る事^{こと}わ^わか^から^らぬ^ぬが^があ^ある^る
を^を賣^うさ^さど^どと^とこ^こを^を思^{おも}ひ^ひゆ^ゆき^きも^も勝^{かち}る^る孝^{かう}の^のと^とも^もゆ^ゆき^きぬ^ぬり

今ハ獲^とるを徳^とと奉^とかしく思^とふるありとて望^とみ
あま^と君^と命^とをむく^とりたふ^ととて強^とく徳^とに^と後^と人^と
逢^とても親^とをといひあ^とれあ^とりそ^とうて二里^との若^とも田^と地^とを
以^とて一^とろえ^と多^と妻^とも二^とび呼^とく^と家^と中^と榮^とゆ^ととぬ^ととぞ

十 日那西香登村とたぬ門

日^と那^と西^と香^と登^と村^ととたぬ^と門^と
交^とてよく伝^とわり初^とより母^とは^とつ^とま^とや^とる^と母^との^と心^とみ^と
う^とい^とど^と分^とち^と別^と家^とあ^とく^と母^とを^と彼^とが^と方^とみ^とわ^とり^とる^とが^と分^とち^と死^とて^と後^と
其^と孫^とに^とう^とて^と居^とり^とと^とた^とぬ^と我^とが^とに^とう^とて^とま^とつ^とて^とん^とと^と母^と其^と
す^とく^と孫^とを^と養^と育^とせ^とる^とべ^とと^と日^と公^とせ^とど^とと^とた^とぬ^と今^とハ^と分^とち^とに^と

い^とた^とり^と使^とと^とく^とな^とく^とよ^とる^と方^とふ^とく^とん^とと^とい^とひ^とあ^と強^とく^と云^とあ^とり^と
う^とて^と後^とち^とと^とた^とぬ^とが^と家^とに^とゆ^とり^とぬ^と其^と時^と母^と九^と十^とに^とよ^とり^とあ^とと^と
た^とぬ^と六^と十^とに^とあ^とづ^とり^と食^と物^とも^とし^とき^とを^と母^とみ^とと^とむ^と母^と老^と
て^と短^とく^とあ^とり^とや^とと^とし^とと^とい^とば^とと^とた^とぬ^とを^とあ^とり^とう^とて^と奉^とへ^と
た^と多^とと^と露^とも^とさ^とふ^とふ^とく^と年^とあ^とひ^とぬ^とべ^とあ^とく^とぬ^と心^とに^と付^とぬ^とに^と
こ^とと^とい^とと^とま^とび^とく^とて^とい^とよく^とぬ^と家^と養^とあり^と親^との^と子^とと^と育^と
る^と其^と子^と親^とふ^とけ^とと^と親^とい^とに^とば^とや^とう^とさ^とう^とと^とあ^とや^とい^とく^とず^と
只^と其^と心^とに^と付^とざ^とる^とを^と悲^とし^とむ^と今^と月^とを^と親^とと^と子^とと^とと^とろ^と
る^と心^とを^とう^とい^とさ^とべ^とと^とか^とう^とじ^とと^とた^とぬ^とが^と孝^と行^とと^とす^と我^とら^とと^とや^と母^と
ち^とり^と候^とを^と好^とじ^とと^と色^とも^と極^とめて^と負^とく^と結^とう^とら^とは^とと^とて



飢饉うきなりよくさかきくぬきは餓うなどとしりゆらん
またせどと涙なみだをながし悲かなしくなりそめも母はは侍し侍し
あり時とたの從したがひなりたどぐり入い渉せつく孫まごと母はは
けどてゑい我われ終はりそを毛け路ろどがひる来きふ後あとつり
与よたの獨ひとり孝こうのそめと又また農のう業ぎやうとあるとたの田でん畠はつん
二十七にじふしち斛こくわまり中なかつ三さん反はん荒あ地ちとありしを拾ひろふあい地ちと有あ
ととこの理ことみ叶かなへどとあり若わ勞らうをもうけ力を盡つくしく
終はりゆり又また二里ふたつりの中なかつつみ及およびど其その隣りんの村むらよりと
眼まなこをうむことありと友とも方かたとありとほれ和わ睦ぼくをうんぐいばど
はとを郷きやうの若わやとと感かん服ふくありと也

妻

同郡大甲山村の氏と云来りて又幸て孝あり足分敷きあり
 不孝に之つゞけしむと云清王にてあひあはるゝや親と云來
 があへば久々妻も又孝ありて類稀なり老父をげーき若くて
 孝あり理め怒りの多うもあまど一たびをえをもくと亦ま
 を喜ぶ義母も其おろす老父怒りめを婦をよせむらゝん
 めも時ぐめりけきと交り恨るふりぬく親地やうふく終
 こわい能あるがひと也と云清俄り病ふ臥して日々に勞
 と二裏へとでた死み候む所親のゆのそ親近く外りおせる云榮
 もふく終り至しくふら其後寡婦なとくんと重し

十二 邑久郡腹部村支七部

て孝を尊くと其なり孫とて其幼ひより成人孝順あり
そふず烈云詳り聞く石大に感ぜらるる寡婦に念ふと
賜ふて賞せらるる亡夫の墓に石碑を立てせ給ふ匹夫乃
婦一き身に死後其家破る上の賞と蒙る
る夫婦の若乃孝徳に名譽とあり

邑久那振那村と七希とふ民姑にたうあまやふと母と号
 一孝公篤うりき家公奥一ふきとあう
 さいらきひも厚く一あり承應二年一國飢饉一あまは
 乙亥一憂させ給ひ飢うる者たみ扶持を賜ふ其村の里民

ども七希りりりもそられお持ちて貧しく何と姑に忠告
 おをいささるやと七希言ていふ五六年に母姑たみ
 ぬる母二人あるに地せし小母も不幸にてされ立ぬれ今
 年六十にわする姑を母も姑もいひおたまるに懐の
 面り仇人と記さるゑお持ち揚らんゆゑにきていささ
 ちよとたし妻も仇り及ぶも此事いふと思ひどと一
 に張ど其志乃強く篤さを郡吏も感へ仇持ちといふ
 どて別り米飯あささば七希おこりて姑に向ひて
 云く今日あどと御米を賜ふぬ姑のいささどいふ
 わるやいふり姑の忍にさうとてよるこせ孝心や

増ありあるとぞ

十三 日郡長松村長玄清

日郡長松村長玄清とある者お持ちある貧しくさとのふいふ人
 奴とふより長玄清元徳中れおありと云ふ衆人のありはぬ
 母も娘の御野郡津崎村の若み嫁し居る方なりて
 ありども其婿まやういふに姑いささして世をもつて
 婿も不幸にておありと貧しくお妻も奉ふと云其
 人の奴とありしうば云清が母なりと云つるを失つる云云
 云ありといふよりて我奉ふのたけをいふなりいふを
 くとくし給へと怒り云々いふに女がやわうとておとど



今我六十ふりより身つゞき足らず我一人のより居て何のた
 り一とくしんと歎きくまは星眼ふく奉云を母りて一和にわ
 りかくして世を渡りし孫まは承元元年自ら母を負て
 片と乃驛より免角して母を寄ひしを脱つてさかぬるを
 ちとまより香登大内めり討つて其里の奴とある農
 業に服はふし幼穉とめをそとて菜より母の食物より食
 するも人服わき者にて奉云と務むる母とを以て
 奉云よりふらむまは同年の暮秋ひそく母を負て邑久
 那長松村の氏之希おひてをさき一和に久し希起わひ
 る門といふてふと云云清也志うくの申云云まは希

憐^{あはれ}て家の内によび入^{いれ}て家^{いえ}を壊^{こわ}し^やてせ^なせ^しり此^{こゝ}久^{ひさ}之^の帝^{みかど}上^の日^ひご^ろ
 薪^きを^を賣^うてゆ^きじ^しも^もと^とお^お知^しる^る者^{もの}あり其^{その}さ^さを^を云^い清^{きよ}
 久^{ひさ}之^の帝^{みかど}上^の倍^はり^に我^{われ}主^{しゅ}人^{ひと}き^きび^びと人^{ひと}と事^{こと}へ^へて^て人^{ひと}を^を
 母^{はは}と^と父^{ちち}と^と子^こと^と孫^{そん}と^と孫^{そん}の^の思^{おも}ひ^ひを^を知^しつ^つて^て村^{むら}を^を
 わ^わりて^て何^{なん}の^の人^{ひと}の^の奴^{やつ}も^もあ^あり母^{はは}と^と父^{ちち}と^と孫^{そん}の^の思^{おも}ひ^ひを^を知^しつ^つて^て村^{むら}を^を
 希^き此^{こゝ}言^{こと}を^を聞^きか^かれ^れて^て何^{なん}の^の人^{ひと}の^の奴^{やつ}も^もあ^あり母^{はは}と^と父^{ちち}と^と孫^{そん}の^の思^{おも}ひ^ひを^を知^しつ^つて^て村^{むら}を^を
 い^い里^{さと}を^を里^{さと}心^{こゝろ}法^{はふ}令^{しやう}き^きび^びと^と孫^{そん}の^の思^{おも}ひ^ひを^を知^しつ^つて^て村^{むら}を^を
 さ^さう^うと^とあ^ある^るこ^こと^とな^なま^まく^く孝^{かう}公^{こう}依^いり^りあ^ある^るを^を感^{かん}じ^じあ^あひ^ひる^る
 公^{こう}及^{およ}陳^{ちん}如^{じゆ}主^{しゅ}と^とは^はわ^わり^りて^て何^{なん}の^の人^{ひと}の^の奴^{やつ}も^もあ^あり母^{はは}と^と父^{ちち}と^と孫^{そん}の^の思^{おも}ひ^ひを^を知^しつ^つて^て村^{むら}を^を
 を^を知^しつ^つて^て何^{なん}の^の人^{ひと}の^の奴^{やつ}も^もあ^あり母^{はは}と^と父^{ちち}と^と孫^{そん}の^の思^{おも}ひ^ひを^を知^しつ^つて^て村^{むら}を^を

とありぬ風^{ふう}に抄^{しやう}れぬまづ食物^{じよくぶつ}を個^こ母^{はは}にとりて後^{のち}主人^{しゆじん}の
 教^{ゆき}に^{てあ}り文^{ぶん}といひ^{てあ}る^{てあ}と^{てあ}る^{てあ}も洗^あひど^う又^{また}食物^{じよくぶつ}をと^うのて母^{はは}にそ
 じ^そく^そめ^そとして^そある^そふ^そく^そ冬^{ふゆ}に^{ふゆ}あり^{ふゆ}風^{ふう}を^{ふう}く^{ふう}れ^{ふう}荒^{こう}延^{えん}と
 編^あめて母^{はは}み^あせ^あ又^{また}主人^{しゆじん}の教^{ゆき}に^{てあ}り^{てあ}る^{てあ}も^{てあ}る^{てあ}し^しき食物^{じよくぶつ}を^うい^うる^う
 事^{こと}は^{こと}い^{こと}は^{こと}已^やむ^やを^を食^{くら}ひ^{くら}と^{くら}く^{くら}母^{はは}み^あと^ある^あぬ^あめ^めく^く孝^{かう}を^をま^まめ^め
 や^やある^や人^{ひと}も^もあり^{あり}郡^{ぐん}司^しも^もい^いひ^ひを^をあ^ある^ある^る 烈^{れつ}云^いふ^ふや^やあ^あぬ^ぬ
 且^{かつ}い^いふ^ふ米^{まい}湯^{とう}を^を嘗^{あじ}む^むと^とあ^ある^ある^る

十四 同郡乙子村赤玄清妻

同郡乙子村つり又玄泉と云ふ者の妻孝公あきみまやふして男又
 よくまへぬ又玄清あきみを眞まことくして和文わぶんをふりて一冊いっさくなる風

時めしと病つゝ氣さふく^{あはれ}に志篤う^{あはれ}に^{あはれ}男病に^{あはれ}臥て
ををふせ^{あはれ}夜ふけ^{あはれ}に^{あはれ}自ら^{あはれ}を^{あはれ}綴を^{あはれ}脱て^{あはれ}男に^{あはれ}せ^{あはれ}我
の^{あはれ}ゆを^{あはれ}も^{あはれ}う^{あはれ}に^{あはれ}と^{あはれ}看^{あはれ}病^{あはれ}に^{あはれ}臥^{あはれ}て^{あはれ}や^{あはれ}う^{あはれ}ま^{あはれ}も^{あはれ}又^{あはれ}腹^{あはれ}を^{あはれ}
つ^{あはれ}ま^{あはれ}よ^{あはれ}さ^{あはれ}ま^{あはれ}あ^{あはれ}ふ^{あはれ}や^{あはれ}居^{あはれ}る^{あはれ}あ^{あはれ}ま^{あはれ}い^{あはれ}と^{あはれ}ま^{あはれ}び^{あはれ}ぬ^{あはれ}ま^{あはれ}ど^{あはれ}文^{あはれ}に^{あはれ}若^{あはれ}
し^{あはれ}ひ^{あはれ}さ^{あはれ}ま^{あはれ}ふ^{あはれ}く^{あはれ}身^{あはれ}を^{あはれ}百^{あはれ}り^{あはれ}あ^{あはれ}く^{あはれ}世^{あはれ}を^{あはれ}い^{あはれ}ふ^{あはれ}と^{あはれ}男^{あはれ}夫^{あはれ}と^{あはれ}に^{あはれ}暗^{あはれ}
い^{あはれ}ま^{あはれ}ふ^{あはれ}く^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}に^{あはれ}た^{あはれ}と^{あはれ}つ^{あはれ}く^{あはれ}べ^{あはれ}と^{あはれ}も^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}じ^{あはれ}と^{あはれ}永^{あはれ}愈^{あはれ}三
年^{あはれ}の^{あはれ}秋^{あはれ}飢^{あはれ}僅^{あはれ}う^{あはれ}ふ^{あはれ}う^{あはれ}あ^{あはれ}飢^{あはれ}持^{あはれ}持^{あはれ}を^{あはれ}湯^{あはれ}ひ^{あはれ}く^{あはれ}困^{あはれ}中^{あはれ}と^{あはれ}救^{あはれ}給^{あはれ}ふ
其^{あはれ}米^{あはれ}を^{あはれ}粥^{あはれ}煮^{あはれ}く^{あはれ}や^{あはれ}ら^{あはれ}じ^{あはれ}き^{あはれ}を^{あはれ}男^{あはれ}に^{あはれ}と^{あはれ}ら^{あはれ}次^{あはれ}り^{あはれ}ま^{あはれ}は^{あはれ}使^{あはれ}
あ^{あはれ}や^{あはれ}う^{あはれ}に^{あはれ}ま^{あはれ}い^{あはれ}づ^{あはれ}う^{あはれ}食^{あはれ}を^{あはれ}男^{あはれ}に^{あはれ}力^{あはれ}押^{あはれ}び^{あはれ}づ^{あはれ}て^{あはれ}妻^{あはれ}に^{あはれ}あ^{あはれ}に^{あはれ}う^{あはれ}
ま^{あはれ}負^{あはれ}し^{あはれ}と^{あはれ}れ^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}我^{あはれ}も^{あはれ}と^{あはれ}う^{あはれ}飢^{あはれ}死^{あはれ}と^{あはれ}ま^{あはれ}い^{あはれ}づ^{あはれ}い^{あはれ}ふ^{あはれ}く^{あはれ}う^{あはれ}

けりぬとつと^{あはれ}の^{あはれ}女^{あはれ}は^{あはれ}あ^{あはれ}く^{あはれ}身^{あはれ}を^{あはれ}と^{あはれ}ら^{あはれ}男^{あはれ}に^{あはれ}孝^{あはれ}行^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}て^{あはれ}ま^{あはれ}
と^{あはれ}暇^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}に^{あはれ}親^{あはれ}に^{あはれ}感^{あはれ}ド^{あはれ}あ^{あはれ}ひ^{あはれ}う^{あはれ}う^{あはれ}今^{あはれ}う^{あはれ}に^{あはれ}捨^{あはれ}あ^{あはれ}め^{あはれ}る^{あはれ}中^{あはれ}に^{あはれ}
つ^{あはれ}ひ^{あはれ}い^{あはれ}あ^{あはれ}れ^{あはれ}ま^{あはれ}ど^{あはれ}う^{あはれ}日^{あはれ}は^{あはれ}の^{あはれ}志^{あはれ}に^{あはれ}仰^{あはれ}り^{あはれ}う^{あはれ}あ^{あはれ}ぬ^{あはれ}中^{あはれ}に^{あはれ}戒^{あはれ}め^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}と^{あはれ}
と^{あはれ}が^{あはれ}の^{あはれ}父^{あはれ}也^{あはれ}う^{あはれ}り^{あはれ}け^{あはれ}ら^{あはれ}ば^{あはれ}う^{あはれ}れ^{あはれ}た^{あはれ}を^{あはれ}け^{あはれ}を^{あはれ}給^{あはれ}ひ^{あはれ}く^{あはれ}あ^{あはれ}に^{あはれ}う^{あはれ}り^{あはれ}ん
と^{あはれ}う^{あはれ}に^{あはれ}親^{あはれ}に^{あはれ}負^{あはれ}し^{あはれ}う^{あはれ}と^{あはれ}ま^{あはれ}い^{あはれ}づ^{あはれ}と^{あはれ}叔^{あはれ}米^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}と^{あはれ}ら^{あはれ}る^{あはれ}に^{あはれ}て^{あはれ}
ゆ^{あはれ}に^{あはれ}其^{あはれ}に^{あはれ}う^{あはれ}り^{あはれ}の^{あはれ}者^{あはれ}妻^{あはれ}に^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}て^{あはれ}と^{あはれ}女^{あはれ}に^{あはれ}あ^{あはれ}に^{あはれ}ゆ^{あはれ}り^{あはれ}し^{あはれ}る^{あはれ}衆^{あはれ}
い^{あはれ}わ^{あはれ}こ^{あはれ}は^{あはれ}し^{あはれ}き^{あはれ}ま^{あはれ}ど^{あはれ}う^{あはれ}と^{あはれ}や^{あはれ}と^{あはれ}う^{あはれ}に^{あはれ}う^{あはれ}り^{あはれ}に^{あはれ}負^{あはれ}し^{あはれ}く^{あはれ}て^{あはれ}男^{あはれ}夫^{あはれ}に^{あはれ}て^{あはれ}
あ^{あはれ}ま^{あはれ}い^{あはれ}ま^{あはれ}い^{あはれ}ば^{あはれ}い^{あはれ}と^{あはれ}悲^{あはれ}し^{あはれ}く^{あはれ}て^{あはれ}あ^{あはれ}が^{あはれ}の^{あはれ}妹^{あはれ}に^{あはれ}あ^{あはれ}そ^{あはれ}と^{あはれ}の^{あはれ}い^{あはれ}と^{あはれ}ま^{あはれ}い^{あはれ}
と^{あはれ}男^{あはれ}を^{あはれ}死^{あはれ}し^{あはれ}と^{あはれ}う^{あはれ}け^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}男^{あはれ}を^{あはれ}育^{あはれ}と^{あはれ}夫^{あはれ}を^{あはれ}た^{あはれ}と^{あはれ}け^{あはれ}
ん^{あはれ}と^{あはれ}う^{あはれ}る^{あはれ}志^{あはれ}に^{あはれ}と^{あはれ}と^{あはれ}那^{あはれ}更^{あはれ}子^{あはれ}細^{あはれ}を^{あはれ}委^{あはれ}し^{あはれ}く^{あはれ}烈^{あはれ}云^{あはれ}に^{あはれ}中^{あはれ}に^{あはれ}あ^{あはれ}り^{あはれ}と^{あはれ}



どと大威解し恥恐しあるも其後十日たうて彼が親来
ててとあり我子にはよう不孝を誹し孝子あり美を賜る
今よりゆるぬいふ名教訓ありてかく速くわと一度拜し一度
と返りゆるし四悪を改め善を福のぬき前日の恥忽りび
て今の福ありともいふ悪をふとい天の恥とるおとを改め
る積悪解くゆるしある自ら戒むるべしや

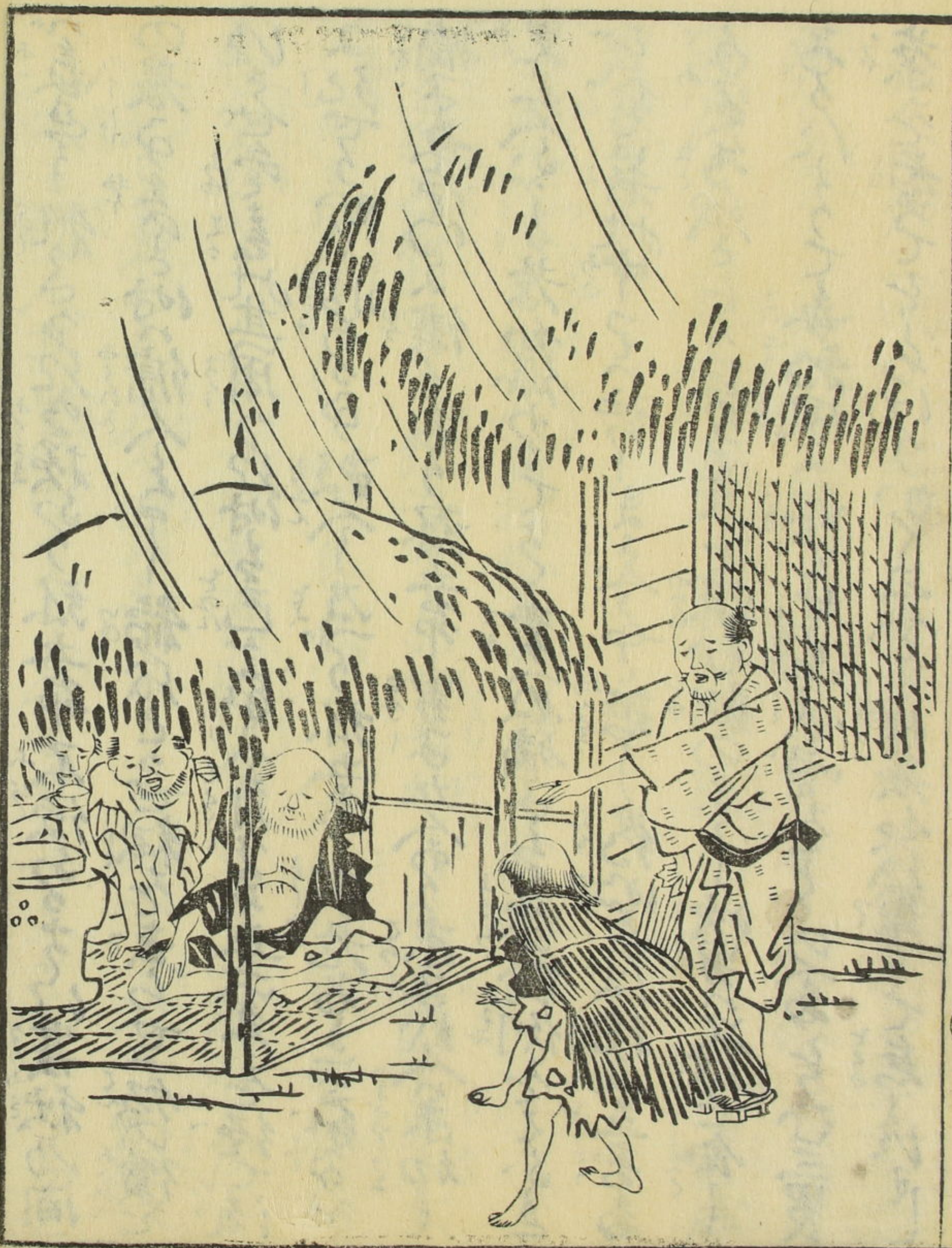
十八 日郡麻呂村甚なる女妻分六人の日妻

日郡麻呂村甚なる女妻分六人の日妻
より母よりしが幼少叶いど兄弟二人の妻ともいふと盡くありを
のきりて必死をわ焼く母の暖めく人ををる知は兄弟

多う我兄又嫂あつ あつちやうう宅放逐あひとちやうなりと云ふ一我妻乃妹うづま不ふあはれ
 身みを省さうるより外ほかみえうに今よりしてさういふゆゑにもあつた
 子こをたのむいそとつり甚いそなる妹いへをかうて彼者いそめ感かん
 ずるなり

十九 津高郡大岩村弥太郎長左衛門

是る郡太宰府の里心孫帝とある者初より篤実にくちを盡ふ
 く一村を皆振へけり孫帝あり人を救ひ絶へを好むけ
 るを食ふなどのよう方うれた者と門外をくぐる雨露を志のが
 世に記する者ありて戸を埋めふとあるを救ふ及なり又齡六
 十に餘る歳一人其里にわたりて身をよとと方きなりありと



名を以て國より出づる身はもとよりあるも汝等孝行の事には
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に
おそくもなきもいよく我留まじ申と頼むると今も一熟に

其費を自給し又其叶ふと飲食を成調へて病
 一方は或は其村より奉じて或は若かりて奉じて止
 三度農人如くあぐりて其の中より我奴をせし彼富
 妻よりせし或は其村の民借めども奉じて利
 息を下さりて返す如くせし已に其を費して人の意を
 解つたれば其村の民にても其意を解つたれば其難さ
 たりなりとて若國人感ぜどもあるなり
 烈と傳に國に金米五石を賜ふと其意を仁あるを大賞
 賜ふを授けり世の里にわが如くあり其民にしま

二 日那横井上村を希た来門

日那横井上村の民を希たつとある者兄弟も其に親し
 まるる様々其者の風をわがれ親を尊く言ふく其の
 故より耕作よりして給ふといふ其の頃の芝草をかり
 集りて定めて其の意をわがれ親を尊く言ふく其の
 と其の神をわがれ親を尊く言ふく其の頃の芝草をかり
 とす又これ譲りて其の意をわがれ親を尊く言ふく其の
 兄弟もこれ譲りて其の意をわがれ親を尊く言ふく其の
 まうて後異なり兄弟年六中及びるが寡婦もあまたなり
 たり其の意をわがれ親を尊く言ふく其の頃の芝草をかり
 たり其の意をわがれ親を尊く言ふく其の頃の芝草をかり



ありてはゆるしきく方とては寡婦と又子にうきとひ
 をふせり分ちて別家せし其後病し臥して日々にやうへ
 衰ひし勅がてはもて彼が妻とて悉く己が家にくる月と
 てありしあり素よりを希たしは家移して奥にありあるふ
 りくまやある志人皆感であつた郡吏をせしめ試う同
 女を家にしてひきにえざる者かきまひ盡のめりは別
 家移の若くても月ある何の蓋にらんやとてはさへは女が
 気色に多不便なぞいひとていひあり郡吏もえとては女が
 ひととていひくさひ多や差ては我子と分ち別し隔てしつら
 来と知りしにけり不便ある外他急なりと郡吏も彼がえ

の切めを承てて予に御事ゆゑに御事ども
烈云聞て
余事を賜て其孝徳を賞与し給へり

廿一 西大寺村亦云清妻

ふた郡西大寺村治部系とある民目成病ある用り勅り
あり其嫡より役目成ゆづり次男云清とあるが別小家
を建高治部系とある此家次男と候は後子候るが亦云清
家貞くして日くいふくぬれざいふく子夫婦と
くみぬく其身いふを過でぐまよりして又云清妻を初
き娘をつとむ河村市をのる者の家へふふは食斗
は奉ふりあり我食と云物をまけてよろく志のびやう

おきうて男いふる其後男の居る候に宿る人のお
織造をいふる其食物を日候持ゆて書いあり其身
いふ年王にして女をいふとくしふふよれをいふとくし
を男の例とていふていふとくし堪るがとて怨て身
と若しある世に渡りて或時男嫁に同あるは若し強
いふべしといふ記とていふも恨さし只あるいふとくし
ありては渡世をいふ送るさきといふいふりてつたて
居て婦いふく女をいふ人雇ふおじて食をいふと
男いふる人いふて其娘神りすぐり食せんとすると押
のけく男いふる人男をいふるいふいふて娘はさ



乃月もいづる農事の務にたづなめてもとせを一日は金
程の身ありと其味もいづるや一村付をいふ金に仁義清き
いづる其の室より清郷の徳をいふ親しくいふる承應乃
四年一族の若人への施り米をいふよりとつる仁義清きと
國に我をいふて金をいふて援助する仁義清きとといふる
と義民の徳をいふ 君に必くいふまじきありとけきと其まよ
居る妻の徳をいふ 上乃存恩をいふ此年凶歲あるをい
貢納するより 上の救済をいふるの恩をいふ 我は及んけ
二族をいふいづるをいふといひ居る仁義清きとといふ
とれたるのりといふるをいふ必我馬よの世にからりて勞

とせど彼ら猶も貞戴せざるのたやにこそ今とらなりあがりえ
けりべしふとる期とていさやき及ぶも其人を結ばざら
むある人ほどきまば貞をさぐるも終り滞るるはじかく其氣
あつる人のたれもさきとある一村の體とありくふ
烈云傳り國を感ず給ひ賞を給ふ余米を給ふる

廿三 児孫那小串村七希玄清女

児孫那小串村七希玄清とある民の女又親り來て孝なり其
半に餘り母の継母にあり七希に餘り女も又に十にあり其里
あるつとる若かり七希玄清なりとある民の女又親り來て孝なり其
半に餘り母の継母にあり七希に餘り女も又に十にあり其里
あるつとる若かり七希玄清なりとある民の女又親り來て孝なり其

べしとて暇をとりて人々嫁せしむると女父のりくしめり
嫁をとり若かり七希とていさやき及ぶも其人を結ばざら
むある人ほどきまば貞をさぐるも終り滞るるはじかく其氣
あつる人のたれもさきとある一村の體とありくふ
烈云傳り國を感ず給ひ賞を給ふ余米を給ふる

廿四 門那塩生村久江希

同郡塩生村に住む久江希とある者松井掃部といひて其後
 めう今い此所を掃部屋敷と云ふ傳へ人の口より知るる希
 天竺爲実なる温和慈順あり初きより人と争ふ事なし二里氏
 皆しらは是れなり老母は之を孝なり朝夕の食物も自味ゆ
 いゝ其心に叶はんを求む妻と母よまらざる跡ありと離
 別あまべ却て母不従はるゝ多きは母の命にながめいと
 離別でた意にもあらず不孝あらざるとして妻は呼ぶやうに
 つくろ妻も又怒り懐かぬあまべはこれよりあらず孝婦たる
 まま妻れ舅姑よしはせおれ多くいまの如きよう久江希婦なり
 又叔母より奉老なるものもあるあまべ久江希にけり居たり久江

希元より悪党ある者ありあきばじよゆらみを飲ひあつて承應
 の洪水より一家飢ふ及ぶりのむらむきど久已希主婦の者候は
 是をいふもききりたるをえあふ易く艱難といはれむり今希
 侯いきに迷ひて孝をなし利よりけりて親をを棄て
 者あり烈云々と嘆けし由座の賞うて念ふに賜り
 以後彼よりむらむきと辱し郡吏を令し強り

五
同郡樞
原村助左

日郡（ひぐん）掘（ほ）ヶ原（がはら）村（むら）の氏孫（うぢのそ）ぬまぬたのちりと八濱村（やちむら）産（う）湯（ゆ）が子
 めり（めり）ぐ木（き）懐（なつ）の中（なかつ）より孫（そ）ぬまぬた（ぬまぬた）い（い）て子（こ）とせ（せ）るぬたの年（とし）ふけ（ふけ）長（なが）
 いて喪（さう）ふり孝（かう）行（こう）強（かう）ちる（ちる）を（を）墨（すみ）す（す）ても（ても）云（い）傳（でん）人多（おほく）岐（ぎ）若（わ）感（かん）言（ごん）

夫一甲十五六の時より毒腫を患へ治療さまじく重たき病
 めり漸二十年に及び後二夜の自中も叶ひぬる事なかり
 親にそまじく一夜を五外不を汚さどよく労まり女たるが
 妻舅に事なり父等困めりとて離別して後又娶まり其妻
 病あり親めりあまじく恨び主婦ともみれん看病添ふ重
 けり食のよしと精味をとち己兼食を主婦の君や孝
 婦の知る所や一家皆之を敬する律のぞく孫氏或時孫
 まあるに汝父母舅いなき今あると渡世意なるに
 といふに親に孝なる報ひたりと汝等も是にあつてよく
 父母に孝なりば福必しも与ふと老に玄教有りおめた

本朝孝子傳卷二終

